

平成 14 年度第三回図書館協議会会議録（要点記録）

日 時 平成 14 年 10 月 24 日（木）午後 3 時～ 5 時
場 所 中央図書館会議室
出席者 村田、日比野、箕浦、野崎、稲川、八代、星各委員
欠席者 清水、田口、木山各委員
事務局 館長、小池、山川

1 会長あいさつ

2 館長あいさつ

3 議題

（1）諸報告（館長）

- (1) 9 月市議会定例会報告
- (2) 決算特別委員会報告
- (3) その他

（2）議案

- (1) 浦安市立中央図書館視察をして
- (2) その他

（1）諸報告内容

（1）9 月市議会定例会で 3 件の質問

- Q . ブックスタートに関連し、絵本と乳幼児の発達をどのようにとらえているか。
- A . 絵本には、絵本の持つ情報を知らせるものがある。絵本を通して、親子のコミュニケーション、触れ合いが深まり、こどもの安定した成長に役立つものと考えている。ブックスタートによって、これが本に親しむきっかけになればよいと期待している。
- Q . ブックスタートをどう進めるのか。
- A . 西東京市として、特色のあるものが打ち出せないか考えている。1 点として考えているのは、プレゼント本の選択や推奨本のリスト作成などについて、実際に図書館でおはなし会をしていただいている方々に声をかけて市民参加としてご協力をお願いしたいと考えている。2 点目として、ブックスタートを周知させるため、母子手帳交付時にチラシを配ります。国庫補助を受けるため、周知のためのチラシや、おすすめ本のリスト作成等の印刷製本費は対象になるということなので、その方法を探っているところです。

- Q . 子ども読書活動推進基本法の市の取り組みについて、どう進めているのか。
- A . 昨年 12 月、子どもの読書活動の推進に関する法律が施行された。現在、東京都
が、都としての推進計画を策定中であり、来年 2 月にでき上がると聞いている。
これを受けて当市でも、社会教育課が事務局となって、図書館、子育て推進課も
協力して、計画をたてていく予定であり、15 年度にできるか 16 年度になるかわか
らないが、進めているところです。

(1)決算特別委員会(平成 14 年 10 月 11、15、16、17 日)で 2 件の質問

- Q . 朗読ボランティアについて。録音テープ作成謝金が、旧両市異なっていたが、
どうなったのか。ボランティアの登録のメリットは。障害者サービスの P R 方法
は。
- A . 謝金については、13 年度から旧田無市に合わせて統一した。ボランティアは、
現在、田無朗読ボランティアの会、保谷朗読ボランティアの会、銀河の会、の 3
グループある。テープの作成、対面朗読等同じような仕事をしてもらっている。
現在、ボランティア養成講座を行っているが、修了者が別のグループとしてでき
るのは、図書館は望んでいない。できるだけ統一を願っている。
視覚障害者は、320 名程と聞いている。全員にテープを送るということはしてい
ない。図書館としては、求めに応じてサービスする方針であり、現在、52 名が利
用している。
P R 方法は、市報に毎回テープサービスの制度があるというお知らせをしてい
る。
- Q . 図書館の貸出等、他市と比較してどういう状況か。
- A . 『図書館年鑑(H13.1~12)』によると、人口 15 万人以上 20 万人未満の全国
41 市中、蔵書冊数は第 6 位、資料費は第 9 位、貸出冊数は第 8 位、予約件数は第
4 位です。
- Q . 柳美里さんの『石に泳ぐ魚』について、国立国会図書館等対応に差があるが、
どう対処しているか。
- A . 『石に泳ぐ魚』は、1994 年 9 月発売の雑誌「新潮」に掲載されたもの。国立国
会図書館では、その部分を袋とじにして見えないようにしている。手を加えない
で、オープンにして貸出しているのが、横浜市立図書館。当市では、雑誌の保存
期間は、1 年としているので、現在蔵書とはなっておらず、この問題は発生して
いない。同じような問題に対しては、職員間で会議を開いて原則としては、知る
権利を尊重し、そのまま貸出している。

(1)その他

6 月からインターネットによる検索・予約の受付を始めている。10 月 11 日現在で、

平成 13 年度の件数をすでにオーバーしている。

質疑

- Q . ブックスタートの国の補助とは、具体的に何ですか。
- A . 子どもの読書活動を推進するというに関する補助です。
- Q . ブックスタートを実際に担当するのは、社会教育課だが、本を薦めるということに理解が進んでいるのか。図書館は受け身で蔵書を揃えて対応していけばよいのでないか。
- A . ブックスタートは子ども読書活動推進基本法に基づくものではない。それ以前に始まったことで、早期に本を渡せる場所で、効率的に行うということで、3 . 4ヶ月検診時に渡すことにし、子どもの読書に関するということから、平成 15 年度から図書館が中心となって、健康推進課、子育て支援課、市民課と連携をとって進めていく。本離れをしているどう本好きにするかということが目的で、どこでやろうとかまわないことです。
- Q . 本を薦めるということは、教育の部分の人がやればよいことで、図書館がやらねばならないことなのか。日本の場合、読書離れが本流にある。お母さんにあげてもお母さんが読めないのだから。ブックスタートは理想論ではないか。社会教育、福祉の方が支える状況作りはできるのでしょうか。2、3回で立ち消えになってしまうのではないか。ブックスタートの理想は否定しないが、行政がやるのは長続きするのか。社会教育課が中心となって、やらなければいけないのではないか。図書館だけが改革を買っていたら泥をかぶってしまう。
- A . 図書館がやらなければならないとは思っていない。基本は本離れしている子どもたちをどう本好きにさせるかということで、幼児期に本に接することによって、本が好きになるという事例が発表されている。良いといわれていることはやりたい。
- Q . 市民参加とは具体的にどのような内容ですか。
- A . おはなし会をやってもらっているグループに集まってもらって、推薦本を出してもらおうというようなことです。
- Q . 3、4ヶ月検診時に本を渡すということは決定なのか。
- A . 決定ではありません。
- Q . 検診時はたくさん集まってよいが、ブックスタートの趣旨を話す時間はない。ただ本をプレゼントするということだけになってしまうのではないかと危惧する。本を渡すということがブックスタートであるならば、本を渡す場所や方法を熟考してもらいたい。母子手帳交付時に趣旨を書いたチラシをも入れてもらう。図書館に来てもらって、選書した本を手に触れられる状態にしておき、見てもらうことも、新しくスタートする市として特色あるやり方だと思う。

Q . 図書館は、社会教育の一環で、積極的に指導していく重要な面がある。図書館は本をあげる場所ではなく、利用者に対応できるように用意して、指導していく場所である。積極的にアピールするプログラムを作り、情報を提供して興味を刺激して、人生を豊かにするのが図書館の仕事です。

ブックスタートについては、3、4ヶ月検診時に与えるのは、早過ぎる。発達段階に応じて適切な本を与えるのが重要です。リストを作成するのは、図書館員でなくてはできない仕事で、専門家の意見を取り入れることも必要です。

Q . 絵本入門講座のようなものを、また行ってほしい。市民参加は、職員が背負うべきものを肩代わりさせている。図書館が主体となってブックスタートを進めてほしい。

A . 職員だけで進めても片手落ちで、手伝いたいという方々の意見を取り入れながらリストを作成したい。

Q . 新規事業をがんばってほしい。成功するには、どれだけ周知するかが重要だ。ポスターコーナーを作ってアピールしたらよい。

A . 本音をいうと職員は大変です。電算化で人員は減っても、業務は増えて、密度の濃い労働に対応しきれない状態です。そこを理解してもらいたい。ブックスタートは、健康推進課でやってもらって、図書館は手助けするという程度がよいのですが。

(2) 議案

(1) 浦安市立中央図書館視察をして

ア 参加した人の感想と意見

委員： 児童担当が専門的で、自信を持って仕事をしていると感じた。

委員： 人事管理がよい。パブリックサービス（利用者に対応している職員）に全員司書があたっている。異動については、毎年希望を出して配置換えをしている。ブックスタートはやらないと言っていた。図書館プログラムの一環として考えているようだ。

委員： 浦安市と西東京市とは歴史的に違うので、同一に比較できない。時間外労働を伏せている。よその者には良い顔を見せているのではないか。

委員： 学校訪問を多くやっている。児童コーナーに複本が多い。

委員： 職員がやりがいを持って仕事をしている。受け身でなく、いろいろなアプローチをしている。それだけの活動をするためのローテーションを組んでいる。市民ニーズを適確に把握していて、本のすみわけがきちんとできている。駐車場が広い。

イ 質疑

委員： 浦安市と西東京市の図書館は、司書率 80% でほぼ同じなのに、西東京市ではどうして生かされていないのか。

館長： 浦安市は相乗効果で、一体となって良い方へ行っている。研修で得たことは生かされている。一つの例は、少子化対策事業として、学校図書館への団体貸出用図書を購入したことなどがあげられます。

主幹： 自分の勤めている図書館と、視察した図書館との乖離が大きい。長期の研修をして、浦安の管理技術を学びたい。

委員： ビジネス支援、行政支援が図書館に欠けていたもの。市議会に情報を提供して、図書館の良さを認識させると良い。

委員： 図書館の担っている基本的な業務のことはキチッとやってることは、先ほどの数値データからもわかる。その点は自信を持って、その上に乗る部分で、市民団体にまかせてよい部分と、職員がやらなければいけない部分を考えて、時代の要請、地域性に柔軟に対応して、職員の意欲を刺激してほしい。

次回会議は、平成 15 年 1 月 23 日（木）午後 3 時から、中央図書館会議室で開催予定。